

コミュニティ・スクールにおける 「社会に開かれた教育課程」実現の一方策

酒匂昌二郎^{*1}・井原 哲典^{*1}・原田健一郎^{*1}・金尾 義崇^{*1}
岡崎 貴将^{*1}・小島 優依^{*1}・美作 健悟

Developing Curriculum Design open to the Society at a Community School

SAKOU Shoujirou^{*1}, IHARA Akinori^{*1}, HARADA Kenichirou^{*1}, KANA O Yoshitaka^{*1}
OKAZAKI Takamasa^{*1}, KOJIMA Yui^{*1}, MISAKU Kengo

(Received December 20, 2019)

キーワード：社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、学校で育む資質・能力

はじめに

平成 29 年 3 月告示の学習指導要領前文に「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となる（文部科学省、p. 15, 2017）と示され、小学校においては令和 2 年度、中学校においては令和 3 年度から全面実施となる学習指導要領の実施にあたって具体的方策を明確にすることは喫緊の課題である。

そこで、コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、学校で育む資質・能力を保護者・地域と共有し、カリキュラム・マネジメントにより「社会に開かれた教育課程」実現を目指した取組を検証することで、その実現のための効果的な方策を明確にしていきたい。

1. 「社会に開かれた教育課程」実現のための手順について

学校に様々な人が当事者意識をもって関わり、学校と協働しながら「社会に開かれた教育課程」を実現していくためには、学校の規模が大きくなればなるほど、仕組みと手順が肝要であると考えられる。

そこで、本校が特に重要と捉えて推進したのが、以下の項目である。

- ① 学校で重点的に育む資質・能力の設定
- ② 学校で重点的に育む資質・能力育成のためのグランドデザインの作成と共有化
- ③ 教科横断的な視点に立ったカリキュラム充実のための単元配列表の作成
- ④ 地域リソースを生かすための仕組みづくり

これらの項目を重点としながら、平成 30 年度から 2 年間にわたり取組を実践した。

1-1 学校で重点的に育む資質・能力の設定

グローバル化の進展や Society5.0 の実現に向けた技術革新等により、社会の変化が加速度を増しており、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝搬し、社会の変化を正確に予測することがますます難しくなっている。こうした予測困難な時代にあっても、学校教育には、児童が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

このような中、本校は開校 147 年目を迎え、学校教育目標を『敬恕』『愛校』の精神に基づき、一人ひとりの夢の実現のため、基盤となる確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成する』として教育活動を行って

* 1 山口県周南市立德山小学校

いる。「敬恕」「愛校」は校是であり、本校教育の根本精神である。この精神を継承しながら、更なる教育の質の向上を図るため、平成 29 年度末、本校の児童が抱える課題を分析し、以下のことが明らかになった。

＜山口県学力定着状況確認問題（10 月）の結果から＞

- ・目的に応じて、必要な内容を整理して書くこと
- ・判断の根拠の説明と論理的な説明

＜学校評価アンケート（12 月）の結果から＞

- ・自主性・自立性を高めること
- ・身の周りの整理整頓をすること
- ・家庭学習の時間を守ること。

＜教職員による SWOT 分析から＞

- ・自信をもって主体的に取り組むこと
- ・他者と関わるよさを一層感じる

このような課題を解決するとともに、未来の創り手となるために必要な力を育む上で、本校の児童にとって大切にしたいことは何か。それは昭和 53 年から取り組んできた素読を始めとして、本校が伝統的に教育活動の中で重視してきた、言葉を大切にされた教育活動をより一層充実させていくことであると考え、学校で重点的に育む資質・能力を言語能力と設定した。

言語能力は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである。中央教育審議会答申（2016）において、言語能力は「①テキスト（情報）を理解するための力が『認識から思考へ』の過程の中で、②文章や発話により表現するための力が『思考から表現へ』の過程の中で働いている」（p. 36）のであり、「言語能力は、こうした言語能力が働く過程を、発達段階に応じた適切な言語活動を通じて繰り返すことによって育まれる」（p. 36）と述べられている。言語能力を育成するために、言語能力がより一層働くような場面はないかといった視点から、教科等横断的な教育課程を編成し、それを実施・評価・改善し、教育活動の質を向上させる「カリキュラム・マネジメント」の実現に努めることが不可欠である。とりわけ、教育活動の中でも授業の質を高めていくことに重点を置くこととした。

授業は、各教科等の資質・能力を育成することを目指して展開していく。言語能力は、教科等の資質・能力を育むためのツールとしての役割もある。授業において、言語能力をより働かせることで、教科等の資質・能力が育まれると同時に、言語能力も向上し、この二つの相乗効果が生まれると捉え、研究を進めた。

1-2 学校で重点的に育む資質・能力育成のためのグランドデザインの作成と共有化

学校で育む資質・能力を保護者・地域等と共有化を図るには、端的に表現したものが必要である。そこで、三つの視点「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「何が身に付いたか」を国語科の「話すこと・聞く

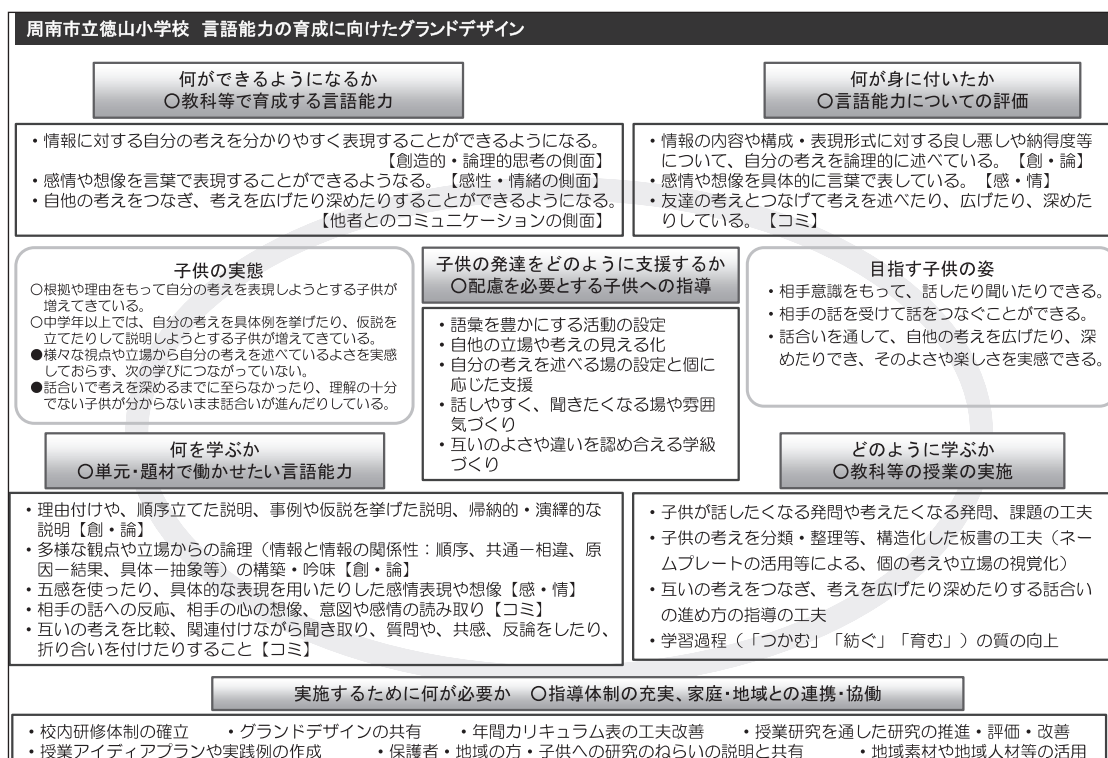


図 1 言語能力の育成に向けたグランドデザイン

こと」の指導事項に基づいた「言語能力のグランドデザイン」を作成し共有化を図った（図1）。

また、グランドデザインを保護者・地域等と共有する機会として、保護者会や学校運営協議会等の場、そして、学校だよりを利用した。その際、言語能力は「ことばの力」という平易な言葉に置き換えて、その育成の取組について具体を添えながら説明し、学校・家庭・地域が連携・協働して教育活動を展開できるように心がけた（図2）。



図2 保護者会全体会での校長の説明

1-3 教科横断的な視点に立ったカリキュラム充実のための単元配列表の作成

各学年の学年目標や育てたい児童の姿を基に、児童の実態や発達段階を踏まえ、グランドデザインの中から特に重点的に育成したい言語能力を明らかにして、各学年の年間カリキュラム表（単元配列表）を作成した（図3）。

令和元年度年間カリキュラム表(5年)		4月	5月	6月	7月	9月	10月
国語		1. 音読しよう だいじょうぶ だいじょうぶ(4) ・国語のノートの作り方 図書館へ行く(1) 一つの言葉から(3)	3. 物語の山場をとらえよう 世界で一番やかましい音(7)	4. 書き手の意図を考えながら 新聞記事を読み比べよう(6) 漢字の由来に関心を持つ(2) 立場を明確にして討論しよう(10) ・生活の中の言葉 異なる立場の友達と話す内容の要旨 を捉えて質問や反論すること	自分の意見と複数の意見とを比較、関連 付けしながら考えを交流すること	その資料を選ぶ理由付けや順序立て た説明をすること。 水のころろ 資料を生かして考えたことを 書こう(6) 古文を声に出して読んでみ よう(3) 敬語を適切に使おう(2)	良 さ 多 い 不 思 議 な 世 界 に そ え
書写		①姿勢、筆記具 め方(4)	互いの考えを比較、関連づけながら聞き取り、 それぞれの土地のくらしについての良さや工夫 に気付くこと。	筆順と字形(3) ・筆順と字形 ・「成長」	○こうひつに広げよう(1) ・筆順と字形	④点画のつながり(3) 毛筆「きずな」 ○こう筆につなげよう(1) ・点画のつながり	⑤文字の中心 毛筆「文庫」
社会		世界の中の国土(4) 1国土の地形の特色(3)	2低い土地のくらし(5) 3国土の気候の特色(3)	4あたかい土地のくらし(4) 1くらしを支える食料生産(4) 2米づくりのさかんな地域(9) 学習のまとめ(2)	生産者、消費者の立場からの論議の構 築・吟味	3水産業のさかんな地域 (7) 4これからの食料生産とわ が国の未来(4) まとめ(2)	1工業生産と工 2自動車をつく
算数		1.整数と小数(4) * 復習・準備(1) 2.体積(9)	◎算数実験室(1) ◎わくわく算数学習 * 復習・準備(1) 3. 小数×小数(11)	4. 小数÷小数(10) 5. 式と計算(4) ◎同じものに目をつけて(2)	6. 合同な図形(10) ◎どんな計算になるのかな (1) ◎算数の自由研究(1) * 復習(1) 1学期予備(6)	7. 整数(11) * 準備(1)	8. 分数(1)(9) * 復習・準備 9. 面積(12)
理科		自然を読みとく(1) 1. 植物の発芽と成長(12)	2. メダカのたんじょう(10)	3. ヒトのたんじょう(7)	○学習をつなげよう！いろい ろな動物のたんじょう(1) ○台風と気象情報(3) ○気象災害からくらしを守る(1) ○広げよう科学の世界を(2)	4. 花から実へ(10)	5. 雲と天気(10)
音楽		音楽プリズム(1) こころをつなぐ歌声・Believe(1) ゆたかな歌声をひびかせよう(3) 共通(こいのぼり)(1)		いろんな音のひびきを味わおう(11) 1学期予備(2)		和音の美しさを味わおう(4) 共通(子守歌)	
図工		自画像(1) 見つけて 広げて(1)	心のもよう(1) カードを使って(2) 糸のコススイイ(4)	消してかく(2) コマコマアニメーション(3)	あんなところでこんなところ で(2)	じっと見つめてみると(4)	立ち上がりマ 物語から広がる
家庭科		ガイダンス(1) ①わが家がズームイン！ (3)	②おいしい楽し (6)			④食べて元気！ ご飯とみそ汁(10)	⑤めざ す
体育		体ほぐし(2) 短距離走・リレー(4)	表現(12)	フォークダンス(5) 水泳(3)	水泳(7)	短距離走・リレー(2) マット・鉄棒・跳び箱(6)	ハードル走・走 り高跳び(6)
保健		1. 心の健康	①心の発達(1)	②心と体のつながり(1)	収集した情報を整理・分析して、徳山 動物園の現状や未来に対する自分 の考えを説明すること	2. けがの防止	①事故やけがの原
総合		徳山動物園PR大作戦 ～動物園の現状を調査しよう～ (15)				徳山動物園PR大	

図3 年間カリキュラム表（第5学年の一部）

単元配列表においては、言語能力を高めるために、中央教育審議会答申（2016）で示されている「「創造的・論理的な思考」、「感性・情緒」、「他者とのコミュニケーション」の言語能力の三つの側面」（p. 36）を意識しながら、各教科・領域等のつながり、そのつながりによって意図する児童が働かせる言語能力を明らかにするようにした。具体的には、図3に示されているように、つながりを線で関連付けた。

年間カリキュラム表を作成するに当たっては、地域リソースとの関連付けを重視した。身近にあるものや身近な事柄だからこそ、五感を使って捉えたり、多面的に分析したりすることができやすく、実感を伴って互いの考えや理解を深めることができると考える。

また、地域の人材については、ふるさとについての深い知識と経験を有しておられ、専門性を学びながら、憧れを抱くこともできる。さらに、地域の方に伝えたり発表したりする場を設定し、発表に反応しながら聞いていただいたり、発表後に価値付けたりしていただいたりすることで、児童が達成感や充実感を味わうことができる。そこで、体験的・実感的な学びやゲストティーチャーとの交流を深めていく機会を計画的に位置付けるようにした。

1-4 地域リソースを生かすための仕組みづくり

学年部を中心とした教材研究や教材開発を促進するために、「拡大学校運営協議会」や「徳山小学校区地域連携教育推進協議会」を設け、地域リソースについての生きた情報を教職員が得やすいようにした。

行政（市の首長部局）や商店街等との連携については、徳山小学校区地域連携教育推進協議会委員として、周南市役所の地域づくり推進課、地域福祉課、次世代支援課、健康づくり推進課、学校教育課、生涯学習課、中央図書館、商店街代表、市民センター（旧公民館）等の方に参加いただき、各課の所掌業務や小学生に啓発したい内容についての説明や、地域連携が考えられる教育活動の紹介をしていただいた。

7月末の拡大学校運営協議会では、協議題を「子供のことばの力を高めるために、どのように、地域の方に子供たちと関わっていただいたり、地域にある資源を活用したりすると効果的であるか。」として、全教職員も参加して行った。学年主任から、1学期の児童の様子を紹介した後、委員の方々から、2・3学期の学習の中で活用できそうな地域のヒト、モノ、コトについて、旬の情報やアイデアをいただくとともに、児童の参加が可能な機会を教えていただいた。

2. 取組の実際

2-1 第5学年総合的な学習の時間の取組「徳山動物園PR大作戦」

2-1-1 目標

- (1) 徳山動物園で働く方々が広く伝えたいと思っている、動物の魅力や命の大切さや、それを伝えるための様々な取組に気付くことができる。 (知識・技能)
- (2) 3つの観点から捉えた課題を基に、徳山動物園の魅力等をPRする方法について繰り返し考察し、よりよい実践方法を見いだすことができる。 (思考力・判断力・表現力)
- (3) 徳山動物園の魅力PR案をよりよいものになるよう、他者と協働して、計画を実行していく上での課題解決に粘り強く取り組もうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

2-1-2 指導計画

	○おもな学習活動・内容	地域連携との関連
（つかむ） ⑩	<p>○「徳山動物園の使命」について、何を広く伝えたいのかを明確にするために、調べ活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広く伝えたい「徳山動物園の使命」 ・ 調べ方の見通し <p>○多くの人に「徳山動物園の使命」を伝えるためのPR方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物の魅力や、動物の命、環境保全の大切さ等について調べた事柄 ・ PR内容、対象、メリットとデメリット 	<p>動物園での調査 1</p> <p>園長補佐の講話 1</p>

<p>〈紡ぐ〉 ⑳</p>	<p>○徳山動物園の使命をPRする方法について話し合い、よりよいPRの在り方を考える。 ・それぞれの案のよさや、改良案 ・一人ひとりが行いたいPR</p> <p>○自分たちの案を、徳山動物園で働く方々にプレゼンテーションする。 ・PR案に関する説明 ・現状のよさと課題（助言から）</p> <p>○現状の課題を踏まえ、PRの実践に向けてすべきことを見いだし、取り組む。 ・課題解決に向けた見通し、取組</p> <p>○対象者に向けてPRを実践する。 ・実践を通して感じた成果と課題</p>	<p>動物園での調査2</p> <p>園長補佐の講話2</p> <p>飼育員アンケート実施 市役所地域福祉課助言</p> <p>動物園でのイベント 市役所地域福祉課支援</p>
<p>〈育む〉 ㉑</p>	<p>○現状の課題を把握し、課題解決に向けて見通しをもち、PR改良に取り組む。 ・課題解決に向けた見通し、取組</p> <p>○改良したPRを実践する。 ・実践を通して感じた成果と課題、成長</p>	

2-1-3 取組の概要と地域連携

徳山動物園のリニューアルを探究課題とし、児童は「動物園の来客者を増やすにはどうしたらよいか」という課題に取り組んだ。市立の徳山動物園の協力をいただき、動物園園長補佐には単元の導入段階で「徳山動物園のリニューアルの概要と動物園の使命について」、そして、児童の学びのキーポイントとなる段階で、「小学生による動物園イベントへの指導・助言」という講話や指導をいただいた。

児童は、動物園が展示を目的とするだけでなく環境問題についての学びの場であることを知り、学習に広がりが生まれた。また、児童の考えた「ポスターを作ってお客さんに呼びかけよう」というアイデアに対して、「それはイラストレーターが作った動物園のポスターと何が違うのですか」と鋭い指摘をいただいたことは、児童が全力で探究課題に取り組もうとする意欲を高めることにつながった。

児童の考えたアイデアは、以下のとおりである。

<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの方と歩く北（南）園ふれ合いツアー ・飼育さんクイズラリー ・かつての動物園クイズカード ・キッズキーパーの声を伝えよう掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・健脚徳山動物園クイズラリー ・解説ツアー ・動物園すごろく ・ごみ問題掲示 ・食ガイド（餌やり） ・未来の動物園掲示板
--	---

「動物園の来客者数を増やしたい」という思いを叶えるためには、高齢者の方に動物園のよさを知っていただくことがポイントの一つと考えた児童は、高齢者が多く集まる場所でイベントの呼びかけを行いたいという願いをもっていた。そこで、7月の徳山小地域連携教育推進協議会で相談しやすい体制ができていた市役所地域福祉課の方に高齢者が多くいる場所を教えていただくとともに、実際に児童が市民センター（旧公民館）で「ぜひ、私たちの動物園イベントに来てください」と呼びかける機会をいただいた。

また、動物園の飼育員の方にはアンケートに協力をいただき、飼育員の方の思いや願いを盛り込んだクイズをイベントに含めることができた。当日を楽しみにしながら各グループの準備を行った児童たちは、自ら昼の校内放送で全校児童に向かって、イベントの呼びかけも実施した。

これらのアイデアをもとに、11月9日（土）、動物園で小学生イベントを実施した。事前の呼びかけに応じてくださった高齢者の方の当日受付や高齢者ふれ合いツアーには、地域福祉課の方が同行して下さった。

2-1-4 動物園での小学生イベントの効果

「とっても楽しかった」

「本物のツアーのようだった」

「これまで生きてきて、こんなに企画力の高い取組を初めて見た」

これらは、イベントに参加いただいた方の感想である。爽やかな秋晴れの天気にも恵まれるとともに、児童の校内放送や市民センターでの呼びかけが功を奏し、イベントには予想以上の来客者が集まった。児童は、これまでの苦勞を乗り越えながら準備したことが自信となり、大勢の来客者に臆することなく、堂々とした態度で、自分たちのイベントをやり遂げた。屋外であることを十分に意識し、語尾まではっきりとした大きな声で説明する堂々たる態度が、各コーナーで見られた。高齢者ふれ合いツアーに同行された地域福祉課の方からは、杖を使っていた方への行き届いた配慮にとっても感心したとの言葉をいただいた。

また、自然学習館「ねいちゃる」内にある「市民活動ルーム」という施設コーナーにおいて実施した環境問題についての発表は、動物園の使命の一つである環境教育と合致した取組となり、児童の発表や掲示について動物園からも感謝された。

「動物園の来客者を増やしたい」という児童の願いを叶えるためには、イベント実施の日だけでは十分ではない。その点は児童もよく意識しており、当日伝えようとした動物園の魅力は、ポスター等の掲示に結び付け、イベント実施以外の日の来客者対応も考慮した取組を児童自ら行うことができた。

このように、小学生の視点を生かして、探究課題に全力に取り組み、達成感を味わい大きな成長を遂げることができたのは、指導計画を共有した動物園や地域福祉課等の要所、要所での適切な関わりであり、教育課程を開くことの意義を深く実感した。

2-2 第6学年総合的な学習の時間の取組「周南の未来～私たちの町の幸福論～」

2-2-1 目標

(1) 昔からのよさを生かそうとする人と新しくよさを作ろうとする人に出会い、その人たちが行っていることを知り、「人・モノ・環境」の視点から商店街やその周辺等の周南のよさを見付けることができる。

(知識・技能)

(2) 商店街やその周辺等の取材により収集した情報を、思考ツールを活用しながら整理・分析することで、商店街やその周辺等の知られざるよさや努力などに気付き、表現できる。(思考力・判断力・表現力)

(3) 商店街を訪れる人を増やすための取組について、友達と情報交換をしながら話し合いを進め、見通しをもって課題解決の方法を見だし、その実現に向けて進んで取り組もうとする。

(主体的に学習に取り組む態度)

2-2-2 指導計画(全27時間)

	○おもな学習活動・内容	地域連携との関連
⑧ 〈つかむ〉	○周南市とK市の住みよさランキングや財政について比較する。(1時間) ・現状の理解 ・周南市のよさ ・問題把握 ○周南市の頑張っている取組について専門家から話を聞く。(2時間) ・まちづくり総合計画 ・市役所としての願い ・困っていること(駅までは人が来るようになったが、商店街を訪れる人は増えていないこと) ○商店街の活性化方法について話し合う。(part 1) (1時間) ・理想像(遊園地・デパート) ・理想と現実との比較 ・バックキャストイング ○商店街の実態を調査し、報告する。(4時間) ・商店街の実態調査 ・「人・モノ・環境」からの気付き ・報告会の実施	周南市政策推進部企画課 中心市街地整備課 周南市市街地活性化協議会タウンマネージャー 商店街での現地調査

【願い】まずは駅まで来るようになった人を、商店街まで足がのびるようにしたい。

<p>⑭</p> <p>〈紡ぐ〉</p>	<p>○商店街の活性化方法について再度話し合う。(part 2) (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態調査から得たこと ・「人・モノ・環境」からの気付き ・自分たちにできることの精査 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 商店街の集客人数を増やそう！ </div> <p>○課題解決の目的と手法を考える。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的意識 ・効果的な手法(CM・マップ等) ・持続的・継続的・主体的な視点 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【CM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつや飲み物 ・和菓子やお茶 ・商店街の憩いの場 ・あたたかい人たち ・商店街の歴史 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【マップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グルメマップ ・100円バス活用マップ ・駅に勉強しに来た人へのおやつ紹介 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【ウォークラリー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児玉源太郎 ・兼崎地橙孫 ・石碑 </div> </div> <p>○商店街やその周辺等を調査し、PRの実現に生かす。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街とその周辺等の実態調査 ・PR実現に向けた気付き <p>○周南市市街地活性化協議会タウンマネージャーから取材の極意を教わる。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材の効果的な方法や留意点 <p>○役割分担をしてPRに向けて活動する。(7時間)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【シナリオ・撮影班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CMのシナリオ作り ・ロケーション交渉 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【写真班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グルメマップ写真 ・イラスト </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【記事班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲載記事作成 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【取材・メッセージ班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材交渉 ・商店街の方の思い </div> <p>○試写会・試作品紹介から、新しい課題を見付ける。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街や市の広報課の方からの意見 ・修正案 	<div style="text-align: center;"> </div> <p>商店街での現地調査</p> <p>周南市市街地活性化協議会タウンマネージャー</p> <p>商店街での現地調査</p> <p>商店街での現地調査</p>
	<p>○実際の上映に向けて計画や宣伝をする。(5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・QRコード活用による発信 ・修正 	
<p>⑮</p> <p>〈育む〉</p>		

2-2-3 取組の概要と地域連携

第6学年は、隣接するK市が住みよさランキングにおいて随分上位にあることに対する疑問をもとに、学習をスタートした。そこでは、周南市政策推進部企画課や中心市街地整備課のまちづくりの諸施策を理解した上で、「駅前図書館まで来ている多くの市外客を商店街まで呼び込みたい」という、単元を貫くめあてを設定した。

7月の徳山小地域連携教育推進協議会で繋がりのできた商工会議所や商店街代表の方からの助言で、周南市市街地活性化協議会タウンマネージャーや商店街の方を講師として招聘することで、学びの広がりや深まりを生むことができた。

さらに、周南市教育委員会教育研究センターによるQRコードを利用したWebページを活用したPR方法の提案は、児童の学びに一層の広がりを生み出した。

特筆すべきは、地域活性化プロジェクト「ツナカン」（周南市のまちを繋げ感動・感謝を広げる会）の方が、商店街で実際に店を出してみたいという児童の願いを実現してくださったことである。児童の商店街活性化への熱い思いを受け、希望者を募って「チビツナ」（チビツナツナカンの略称）を組織し、夏季休業中に商店街でのインタビューと、それをもとにした未来の商店街MAP作り等の活動を経験させていただいた。

また、11月10日（日）には、チビツナの児童が空き店舗を活用して実際に店を開くという体験活動を仕組んでいただいた。

教育課程を開き、学校での指導計画を共有することで、学校だけでは行うことが難しい活動を体験できるという新たな展開を生むことができた。

2-3 自主防災組織による防災体験活動

本校の学校運営協議会委員の方が自主防災組織の長でもあったので、平成28年度第2回学校運営協議会で「子供たちに防災体験をさせてあげようか」と提案してくださった。そこで、学校運営協議会では、防災体験にふさわしい場について協議し、PTAの親子ふれ合いバザーのコーナーの一つとして実施することが決定された。

防災体験の内容は、以下のとおりである。

平成29年度 煙体験・避難所体験

平成30年度 煙体験・段ボールベッド作り体感・土嚢作り体験

令和元年度 煙体験・消火器体験・応急救護体験・土嚢作り体験

令和元年度の参加者は、煙体験（359人）、消火器体験（268人）、応急救護体験（258人）、土嚢作り体験（212人）であり、多くの児童が体験することができた。

この取組のよさは、学校運営協議会委員の方が自分の所属する団体の方を巻き込みながら、高い当事者意識のもと、取組が年々充実していることである。また、企画段階からPTA役員が目的・計画を共有し、協働してPTAバザーを運営することで、相乗効果を高めていることである。

従来から言われている学校だけでは十分でない体験を、地域で計画的に設定してもらえた好事例であると捉えている。

2-4 就学時健康診断子育て講座における家庭支援チームとの協働企画「子育てのコツ大賞を選ぼう」

小学校では、毎年2学期に就学時健康診断を実施しており、その機会を利用して次年度新入学児童保護者を対象とした生涯学習課主管の「子育て講座」が実施されている。地域での繋がりが希薄化している現状をふまえ、例年一人の講師の講話で実施してきた形を見直し、子育て支援チームおよびPTA役員の力を借りて、保護者のつながりを強化する企画を学校と生涯学習課、子育て支援チームと協働して企画した。

学校では、保護者アンケートの機会を利用して、「子供がどうしても言うことを聞かないときに、どのようにしているか」という子育てのコツを集約していた。こうした保護者の声を活用し、「子育てのコツ大賞を選ぼう」という設定でワークショップを行うことにした。予定される約100人の保護者に対してワークショップを行うためには、家庭支援チームだけではスタッフの数が十分ではない。そこで、PTA役員にも協力を求め、グループに一人のスタッフがついてファシリテーター役を務めていただいた。

本校には、多くの幼稚園・保育園からの入学があるため、参加した新入学児童保護者の多くは、グループメンバーと初対面であったが、和気藹々とした協議が行われた。

子育ての知恵を共有し、「こんなことあるよね」とあるとか、「そうそう、私も困っていたの」という声があちらこちらのグループから聞かれ、温かい雰囲気の中で、保護者の繋がりを作るよい機会となった。また、家庭支援チームだけでなく、PTA役員が参加したことで、先輩保護者としての実感を伴った助言を得られたことが好評であった。

実施にあたって、家庭支援チームの支援強化を願う生涯学習課と保護者の繋がりを強めたいという学校の願いが合致し、綿密な計画・準備がなされたことが、充実した企画・運営に結び付いたと考えている。

3. 研究の成果と課題

3-1 社会に開かれた教育課程実現に向けての成果

○ 学校で重点的に育む資質・能力の設定

これからの社会を担う児童に必要な力を意識した上で、小学校学習指導要領で示されている「育成を目指す資質・能力」を、児童の実態・学校の伝統や実態を踏まえ教職員で協議を重ねて「学校で重点的に育む資質・能力」として設定し、まずは教職員自身がその育成の重要性を十分理解することを大切にした。その結果として、各学年部が地域に連携を求める際の意義がより意識化され、地域連携が指導計画の中により積極的かつ効果的に位置付けることにつながった。従前も、地域連携を求める際に「どのような児童生徒を育むか」を明確にする必要性が訴えられてきたが、それを「学校で重点的に育む資質・能力」として焦点化することで、より効果が大きくなることをこの2年間で実感している。

○ 学校で育む資質・能力の共有化

設定した「学校で育む資質・能力」を学校運営協議会や保護者会、学校だより等の機会を利用しグランドデザインの周知を図ったことは、多くの人の協力体制を強化するために有効であった。

特に、学校運営協議会委員については、自主防災組織の団長や市民センター所長等、地域活動の中心的な役割を担われている方であり、こうした方々に理解していただいたことで、それぞれの団体の当事者意識が高まり、自主的・計画的な活動が生まれたことは、コミュニティ・スクールの利点であると言える。

○ 年間指導計画の共有

学校の指導計画を外部の方と共有する機会の設定は、後の教育活動に大きく影響する。そこで、7月開催の拡大学校運営協議会では、全教職員が低学年・中学年・高学年ブロックに分かれて、委員の方に2学期以降の指導計画を説明し、指導充実のために有効なりソース（ヒト・モノ・コト）のアイデアをいただいた。実際に社会科教科書を示しながらの説明は、委員の具体的理解を促し、拡大した年間指導計画を眺めながらの協議は、委員や教職員の考えを深め合い、新たなアイデアを生み出す効果をもたらした。

また、地域連携を強化するために設置した「徳山小校区地域連携教育推進協議会」では、周南市役所の地域づくり推進課、地域福祉課、次世代支援課、健康づくり推進課、学校教育課、生涯学習課、中央図書館等市民センター所長、商店街代表者を委員としたことで、「町づくり」や「福祉」等について、より広い視点により各学年部が必要な外部人材等を検討することができた。2学期以降、学習の要所、要所で教職員が主体的・積極的に委員と関わりをもち、アドバイスを受けることができた。このことは、児童の学習意欲の向上や学習の深まりにつながることとなった。

3-2 児童アンケートの変容と今後の課題

表1 児童アンケート（7月）の肯定的回答集計結果

	質問事項	2018年7月(%)	2019年7月(%)
①	友達と意見交換するのは、楽しい。	93.9	94.6
②	授業に主体的に取り組んでいる。	94.1	95.4
③	学級の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	88.8	93.5
④	授業で学んだことや知っていることを生かして、自分の考えをもつことができている。	89.5	92.7

※ 肯定的な回答は4段階評価における「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせたものである。

表1は、研究の初年度と2年次の7月における児童アンケート（全学年対象）の集計結果である。この結果の比較からも、言語能力を学校で育む資質・能力と定めた取組による児童への効果が認められる。

また、全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙においても、表2のとおり結果が現れている。

表2 全国学力・学習状況調査児童質問紙の肯定的回答

質問事項	対象年度	肯定的評価割合 (%)
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	2019年	68.7
	2018年	48.9

※ 肯定的な回答は4段階評価における「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせたものである。

学習における言語能力に関する児童の意識の向上が見られただけでなく、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という意識の高まりも見られる。これは、教育課程を保護者や地域に開き、指導の充実のため一緒に話し合い、その結果として多くの地域の大人が児童に関わってくださったことが大きく影響していると捉えている。

今後の課題としては、新しい学習指導要領が全面実施となる中で、働き方改革の視点からも「社会に開かれた教育課程」の意義が十分得られるような取組を模索していくことと考えている。

おわりに

先日、市役所地域福祉課職員の方から、「本校の3学年『認知症サポーターキッズの取組』や5学年『徳山動物園での高齢者ふれ合いツアー』が介護予防の面でもとても意義がある。こんなに小学校と連携することに意味があると思っていなかった。今後もぜひ連携を深めていきたい」というお言葉をいただいた。

また、学校運営協議会委員の一人が長を務めている中央地区自主防災組織によるPTAバザー日の防災体験は、煙体験、段ボールベッド体験、水消火器体験と年々内容が工夫され、多くの児童の防災体験が確実に充実してきている。

学校の課題、そして児童に重点的に育みたい資質・能力を、保護者・地域・行政と共有した上で取組を進めてきた結果として、教師の当初の想定以上の教育活動の充実が生まれている。また、関係した大人が、やりがいを感じたり、児童とのふれ合いを楽しんだりしてより積極的に関わるようになるとともに、行政関係職員が学校教育と連携した可能性の大きさを感じている。その姿を見ながら、教育課程を社会に開いていくことの重要性和効果の大きさを実感している。今後は、この2年間での取組を生かし、さらなる教育活動の質の向上を図っていきたい。

参考文献

- 高木展郎監修、矢ノ浦勝之著：「全国先進小学校実践レポート 学習指導要領2020『カリキュラム・マネジメント』の進め方」，小学館，2018.
- 田村学編著：「カリキュラム・マネジメント入門」，東洋館出版，2017.
- 奈須正裕：『「資質・能力」と学びのメカニズム』，東洋館出版，2017.
- 奈須正裕：「教科の本質を見据えたコンピテンシー・ベースの授業づくりガイドブックー資質・能力を育成する15の実践プランナー」，明治図書，2017.
- 文部科学省：「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】」，2010.
- 文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」，東洋館出版，2017.

引用文献

- 中央教育審議会：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」，p.36，2016.
- 文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年告示）」，東洋館出版，p.15，2017.